

季語の世界 春

猫の恋

初春に恋のシーズンを迎えて、猫たちが騒がしい鳴き声を上げながら歩き回ったり、メスを巡ってオス同士でけんかしたりする様子を示す春の季語です。松尾芭蕉の「猫の恋やむねやときおぼろづき閨の朧月」、小林一茶の「鼻先に飯粒つけて猫の恋」など、多くの俳人に詠まれています。

